

ウェルビーイングとテクノロジーに関する動向

編集にあたって

湯浅 晃 | (株) NTT データグループ


「ウェルビーイング (Well-being)」というキーワードが近年注目されている。人々のウェルビーイングを支援するさまざまなデバイスやサービスが開発されており、また自治体やスマートシティではウェルビーイングを考慮した街づくりや指標づくりの試みが行われている。ウェルビーイングをテクノロジーによって支援する方法や、両者の関係性について検討するためには、心理学、哲学、デザイン論、UI/UX、AI、人間拡張、ロボット、触覚、環境設計などさまざまな分野の知識が必要となる。そこで本特集ではウェルビーイングとテクノロジーの考え方や取り組みについて広く見渡せるよう国内外での研究動向や実践例を解説する。

第1の記事では、日本電信電話(株)の渡邊淳司氏による「ウェルビーイングに資するテクノロジーの考え方/創り方」である。人々のウェルビーイングに資するテクノロジーの要件について、その基礎要件を「ウェルビーイングを誰もが持ちつつもそれぞれ異なり、さらに自他の総体として生じるものである」とし、デザイン要件のポイントである「ゆらぎ(変動性)、ゆだね(自律性)、ゆ

とり(内在性)」について解説いただいた。またウェルビーイングに資するテクノロジーの設計指針として、「そのテクノロジーがどのような場面で、誰のどのカテゴリ(I, WE, SOCIETY, UNIVERSE)のウェルビーイングに資するかをイメージし、その上で“ゆらぎ、ゆだね、ゆとり”を考慮したものであるかチェックする」と、その考え方を解説いただいた。

第2の記事は、慶應義塾大学・武蔵野大学の前野隆司先生による「ウェルビーイングの研究と社会の動向—ウェルビーイングが研究・教育・産業を変える—」である。哲学的研究、心理学的研究、工学的研究、経営学的研究に分けて、ウェルビーイング研究の現状の解説から始まり、初等・中等教育、高等教育、社会人教育におけるウェルビーイング教育の動向、そして社会におけるウェルビーイングに関する活動の動向について概説した。最後にウェルビーイング革命が産業革命、農耕革命に匹敵する大きな時代変化であると考えられることについて解説いただいた。

第3の記事は、Technel 合同会社の七沢智樹氏



による『**ウェルビーイングとテクノロジーの関係性**』を哲学する—批判と具体的実践—」である。哲学におけるウェルビーイングについて、その定義や、やっかいな性質、そして福祉や心理におけるウェルビーイングとの違いについて解説いただいた。またウェルビーイングとテクノロジーの関係性、テクノロジーのメリットデメリット、そしてテクノロジーの提供者と使用者の自由と責任について解説いただいた。実践例としてマイカームーブメントや近年の“Time well spent”の思想を元にしたスマホの使用時間をマネジメントする機能などについて紹介いただいた。

第4の記事は、(株)NTTデータグループ湯浅晃・長谷川美夏による「**個人のウェルビーイングを支援する技術—ウェルビーイングを支援する方法論と生成AIを活用した食のウェルビーイングを支援するパーソナルアシスタント開発事例—**」である。

著者らによる個人のウェルビーイングを支援するための方法論と、実践例として食事のウェルビーイングを支援するアシスタントのプロト開発事例を紹介している。アシスタントの実装においては、ChatGPTに代表されるLLM（大規模言語モデル）を利用しており、実践を通じて得られたLLMの活用方法に関する知見と課題について解説している。

第5の記事は、東京大学大学院医学系研究科、五十嵐歩氏による「**ウェルビーイングを支援するケアとテクノロジーの活用**」である。人々のウェルビー

イングの実現を支援するケアについて論じるとともに、効果的なケア実践に向けたテクノロジーの活用について解説いただいた。ケア対象者のウェルビーイングを考え、その実現を目指した支援の実践的な取り組みとして、ケア従事者と利用者のウェルビーイングを考えるワークショップや、認知症のある人のウェルビーイングを考える授業などについて解説いただいた。

第6の記事は国立研究開発法人産業技術総合研究所、大隈隆史氏による「**『はたらく』を支える技術とウェルビーイング**」である。「はたらく」という従業員の活動を支援することで、そのウェルビーイングの向上や組織のウェルビーイング経営に資する技術について解説するとともに、これらの技術が働き手のウェルビーイングにどのような影響を与えるかについて解説している。「はたらく」を支える技術群として「計測、可視化・分析、モデル化・シミュレーション、介入（改善活動支援技術）」を用いた業務プロセス、そして分析に用いた指標とサービスプロセス改善の結果とともに研究事例を解説いただいた。

以上、本特集は多くの分野の研究者、実践者による取り組みを解説したものとなっており、ウェルビーイングの考え方や実践例について広く見渡せるようになっている。ぜひご一読いただきたい。

(2024年3月25日)

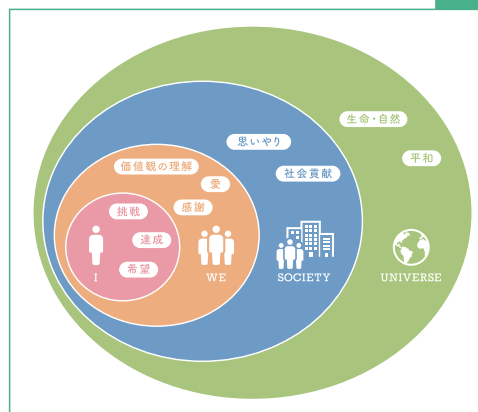
概要

1 ウェルビーイングに資する テクノロジーの考え方／創り方

基
般

渡邊 淳司 | 日本電信電話（株）

近年、ウェルビーイングという言葉が、会社経営や働き方、ヘルスケアや教育等、さまざまな分野で耳にするようになりました。それに伴い、ウェルビーイングに資する（とされる）テクノロジーについても議論や実践が活発になされています。本稿では、その事例を取り上げつつ、ウェルビーイング・テクノロジーの考え方や創り方について議論します。



2 ウェルビーイングの研究と社会の動向 —ウェルビーイングが研究・教育・産業を変える—

基
般

前野 隆司 | 慶應義塾大学／武蔵野大学

ウェルビーイングの専門家として、心理学をはじめとするさまざまな分野におけるウェルビーイングの研究動向と、初等・中等教育から高等教育・社会人教育におけるウェルビーイング教育の動向、そして社会におけるウェルビーイングに関する活動の動向について概説した。特に、最後には、ウェルビーイング革命が産業革命、農耕革命に匹敵する大きな時代変化であると考えられることについて述べた。

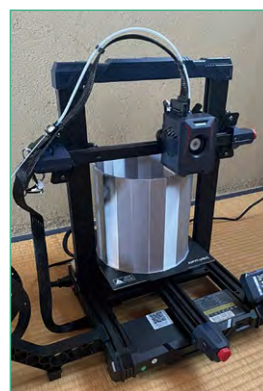


3 「ウェルビーイングとテクノロジーの関係性」を 哲学する —批判と具体的実践—

応
般

七沢 智樹 | Technel 合同会社

テクノロジーが社会に深く浸透した現代、人生をより善いものにするためにテクノロジーとどのような関係を築くのが問われている。ウェルビーイングを、哲学的な立場から捉え直し、ウェルビーイングとは主観的幸福や身体的・精神的・社会的満足なのだとする立場を批判的に検討した上で、技術哲学の知見を元に具体的なテクノロジーとのより善い関係性の構築のための手立てを解説する。



概要

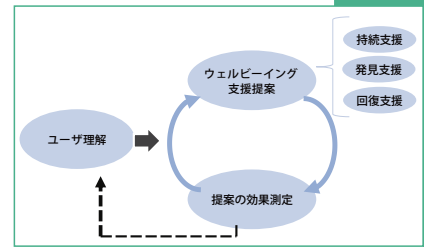
4 個人のウェルビーイングを支援する技術

—ウェルビーイングを支援する方法論と生成 AI を活用した食のウェルビーイングを支援するパーソナルアシスタント開発事例—

応
般

湯浅 晃 長谷川美夏 | (株) NTT データグループ

本稿では筆者らが提案する個人のウェルビーイングを支援するための方法論を紹介する。また、その実践例として食事のウェルビーイングを支援するパーソナルアシスタントのプロトタイプ開発事例を紹介する。パーソナルアシスタントの実装においては、ChatGPT に代表される LLM（大規模言語モデル）を利用しており、実践を通じて得られた LLM の活用方法に関する知見と課題について述べる。

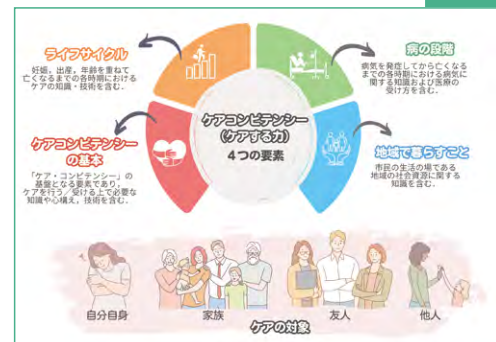


5 ウェルビーイングを支援するケアとテクノロジーの活用

応
般

五十嵐歩 | 東京大学大学院医学系研究科

少子高齢化が進み長寿社会となった我が国において、疾患や障害の有無にかかわらず、誰もが安心して自分らしく暮らせる共生社会の実現が求められている。共生社会とは、身体・認知機能の低下や疾患・障害を抱えていても、適切な支援（ケア）を受けることにより、その人にとってのウェルビーイングを実現できる社会といえる。本稿では、人々のウェルビーイングの実現を支援するケアについて論じるとともに、効果的なケア実践に向けたテクノロジーの活用について考える。



6 「はたらく」を支える技術とウェルビーイング

応
般

大隈隆史 | 国立研究開発法人産業技術総合研究所

本稿では組織において「はたらく」という従業員の活動を支援することで、そのウェルビーイングの向上や組織のウェルビーイング経営に資する技術について解説するとともに、これらの技術が働き手のウェルビーイングにどのような影響を与えるかについて論じる。

